

大賞

## シスメックス 株式会社

代表取締役社長 家次 恒(いえつく ひさし)

本社所在地 神戸市中央区脇浜海岸通 1 - 5 - 1

資本金 8,285 百万円 (2006 年 9 月末)

設立 1968 (昭和 43) 年

事業内容 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェア  
などの開発・製造・販売・輸出入

U R L <http://www.sysmex.co.jp/>

### 【事業の概要】

- ・現在、血液や尿を検査して健康状態を調べる「ダイアグノスティックス(検体検査)」分野において、機器、試薬、検査情報システムなどの総合サプライヤーとして、世界第 9 位 (日本でトップ、アジアで第 3 位)。
- ・世界市場を視野に事業展開し、150 カ国以上に製品を輸出。過去 4 年間で連結売上高は 1.8 倍の 878 億円、経常利益は 3 倍の 120 億円に (いずれも 2006 年 3 月期)。
- ・設立以来、神戸・兵庫を活動の拠点とし、研究開発や機器・試薬工場など主要機能を集約。1998 年、本社を神戸市東部新都心に移転。2004 年、神戸医療産業都市構想の中核施設のひとつである神戸バイオメディカル創造センターに研究拠点を設置。

### 【受賞理由】

- ・国内で初めて、自動血球計数装置の実用化に成功。その後、事業の幅を広げ、ダイアグノスティックス分野で世界有数の企業に。独自の強みを生かしてグローバルトップ企業とアライアンスを組み、グローバルに業績を拡大。
- ・高齢社会において一層重要度を増すヘルスケアに注目し、技術力を生かして新たにライフサイエンス事業にも進出。積極的に事業化を進めている。
- ・神戸・兵庫発祥の企業として、地域に根ざした研究開発やものづくりを実践。神戸医療産業都市構想をはじめ、様々な形で地域の活性化に貢献している。

以上

**特別賞**

## 京都商工会議所

会 頭 村 田 純 一 (むらた じゅんいち)

本部所在地 京都市中京区烏丸通夷川上ル

設 立 1882(明治 15)年

事業内容 地域総合経済団体として、京都のもつ特性を最大限に引き出しながら、地域経済の活力の源泉である企業の経営基盤の安定、さらには新産業の創出を推進。

今回、京都の歴史、文化等の理解度をはかる「京都・観光文化検定試験」事業に関して、受賞。

U R L <http://www.kyo.or.jp/kyoto/index.shtml>

### 【事業の概要】

- ・ 2004 年 12 月より、京都に関する歴史、文化、産業、暮らしなど多岐にわたる京都通の実力をはかる試験として、「京都・観光文化検定試験」(通称 = 京都検定)を実施。目的は、試験を通じて京都を正しく理解し、京都の魅力を発信するとともに、次世代に語り継いでいくこと。第 1 回試験の申込者数は、10,724 人。京都府外からの受験者も多い(第 1 回は、府外からの受験者が全体の約 30%)。
- ・ 2005 年 12 月の第 2 回試験の申込者数は 13,871 人。第 2 回から実施された 1 級試験(2 級合格者のみ受験可能)は、2 級合格者の約 70%が受験。
- ・ 2006 年 12 月の第 3 回試験には、11,236 人が申込み。

### 【受賞理由】

- ・ 観光振興に加え、地域への愛着の高まりを生み出す新たな運動のモデルになった。熱意ある取り組みと先駆性には注目すべきところがある。
- ・ 京都検定そのものが地域や観光地の PR となるとともに、観光客を受け入れる側のおもてなし向上にもつながり、地域振興に貢献。ご当地検定ブームの火付け役に。
- ・ 京都に関わる様々な分野の内容を網羅する認定制度として根付かせた功績は大きい。本検定試験を参考に市内の小学生を対象とした「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定(ジュニア京都検定)」(京都市教育委員会が主催)を派生させたことも考慮すると、単なるご当地検定に留まらない奥の深さを感じる。

以 上

特別賞

## 株式会社 グルメ杵屋

取締役会長 椋本 彦之(むくもと ひこゆき)

本社所在地 大阪市住之江区北加賀屋 3-4-7

資本金 5,838 百万円 (2006 年 3 月末)

創業 1967(昭和 42)年

事業内容 うどん・そば・洋食・和食・その他の飲食店経営などレストラン事業、パーティケータリング、事業所給食、贈答用品販売、関西国際空港における航空機内食の調製・搭載等の外商・給食事業、地方卸売市場の経営及び不動産賃貸事業など

URL <http://www.gourmet-kineya.co.jp/index.html>

### 【事業の概要】

- ・1967 年の設立(1986 年に現在の社名に変更)以来、うどん・そば店をはじめとする外食事業を手がける。
- ・2006 年 4 月に、経営破綻した大阪府貝塚市のローカル私鉄、水間鉄道株式会社を子会社化。社員全員でアイデアを出し合い、バリアフリー推進など車両内でのサービス改善、駅での特産品販売、日当たりの良い場所の蛍光灯を消すことから始めるケチケチ作戦など、外食産業のノウハウをもとに関西企業らしいユニークな経営手法を駆使し、黒字化の目途をつけた。
- ・同社はこのほか、大阪木津市場の再建(2003 年 1 月に子会社化)や学校経営、自治体の施設管理等にも携わっている。

### 【受賞理由】

- ・食をベースとしながらも、鉄道事業や卸売市場、学校法人など、幅広い分野において、地域に根ざした事業の再生に取り組み、関西経済の活性化に貢献。
- ・関西企業らしいユニークな手法で社員のやる気を引き出し、公共性の高い事業を立ち直らせるその手腕は、まさに官から民への改革の範といえる。

以上

特別賞

## なにわ淀川花火大会運営委員会

会 長 小池俊二（こいけ しゅんじ）[大阪商工会議所 副会頭]  
運営本部長 小嶋淳司（こじま あつし） [がんこフードサービス(株) 会長]

事業名称 なにわ淀川花火大会

開催頻度 1989（平成元）年より毎年8月上旬

会 場 淀川河川敷

主催・後援団体(2006年第17回大会の場合)

主 催： なにわ淀川花火大会運営委員会

後 援： 国土交通省近畿地方整備局、大阪府、大阪市、関西経済連合会、  
大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪21世紀協会

U R L <http://www.yodohanabi.com/>

### 【事業の概要】

- ・1989(平成元)年に、第1回「平成淀川花火大会」を開催。過去16回にわたり開催されてきた「十三どんとこい祭」の運営委員会を母体に「平成淀川花火大会運営委員会」を結成(2006年より、現在の名称に変更)し、毎年8月初旬に淀川河川敷で花火大会を開催。
- ・「町衆の手づくり花火大会」として、周辺企業・団体・商店など地域住民の寄付によって財政を賄い、水都大阪を流れる淀川とわが街を愛する地元のボランティアスタッフが手づくりで企画・運営。
- ・今日、花火25,000発、周辺を含め60数万人の人手で賑わう全国屈指の花火大会に。

### 【受賞理由】

- ・警備上の問題などから花火大会が次々となくなっていく中、18年という長きにわたり、地元のボランティアスタッフによる手づくりの花火大会を企画・運営。これは地域に根ざした活動の範となるもの。
- ・今日では60万人以上を集客する全国有数の花火大会となり、なにわの夏の風物詩として定着するなど、大阪・関西の活性化に貢献。

以 上